

ジョン E. エステス教授追悼号

ジョン E. エステス教授の略歴



1939年7月21日生
2001年3月9日逝去

(逝去時の役職)

カリフォルニア大学サンタバーバラ校地理学科教授

同学科リモートセンシング研究部門長

地球地図国際運営委員会委員長

アメリカ航空宇宙局宇宙ステーション科学利用アドバイザー委員会委員

アメリカ航空宇宙局地球システム科学応用アドバイザー委員会委員

米国学術会議宇宙応用委員会、地図科学委員会委員

専門分野：リモートセンシング、GIS、土地利用研究

(略歴)

1962年 サンディエゴ州立大学卒業

1963年 サンディエゴ州立大学
修士課程修了

1969年 カリフォルニア大学博士号取得

1969～1975年 カリフォルニア大学
サンタバーバラ校
地理学科助教授

1975～1979年 同 準教授

1979～2001年 同 教授

1987～1989年 アメリカ航空宇宙局本部
客員上級研究者併任

1992～1995年 アメリカ地質調査所
客員上級研究者併任

1996年～ 地球地図国際運営委員会委員長

1981年 アメリカ写真測量学会
Ford Bartlett賞

1989年 GeoCarto International 誌
名誉編集長

1994年 アメリカ地理学会
リモートセンシングメダル

1994年 アメリカ写真測量学会会友

1996年 アメリカ航空宇宙局よりMission to
Planet Earthへの貢献で表彰

1997年 アメリカ航空宇宙局
Rotary Stellar賞

1999年 アメリカ地理学会
Lifetime Achievement賞

1999年 アメリカ航空宇宙局/連邦内務省
William T. Pecora賞

1996年、サンタバーバラで初めてジャックと出会った。

6ヶ月前、広島で会ったのが最後となった。私達、ジャックとクレア・エステス夫人、カレン・クラインと私は、僅か4年の間にかけがえのない友となった。

私には、ジャックは実際よりも大きく見えた。少なくとも家庭人としては、暖かさ、ウィット、智恵の入った大きな輝く包み、引き込まれないではいけない。

そして私はそうなったことが嬉しい。

ジャックが亡くなり空しさが残った。そして彼の仕事の大きさも明らかになった。私は、彼の仕事の1つを手伝えたことを誇りに思う。彼の地球地図。

安らかに眠りたまえ、私の友よ。今、ほかの人たちに仕事をまかせて。

ピーター・ホランド 2001年5月15日
オーストラリア測量土地情報局長
ISCGM 副委員長



ジョン（ジャック）・E. エステス教授、61才は、2001年3月9日、ガンとの戦いの末に突然亡くなった。

エステス教授は、30年以上にわたり、カリフォルニア大学サンタバーバラ校 (UCSB) 地理学部に勤務し、非常に惜しまれる友人であり同僚であった。エステス博士の経歴は顕著である。ジャックは、サンディエゴ大学で学士号と修士号を取得し、UCSBに移りノーマン・スロワー博士のもとで研究を重ね、1969年に博士号を取得した。

ジャックは、1960年代に米国連邦政府やテキサス・インスツルメントに勤務した時期はあるが、彼と学究世界との縁は1965年以降とぎれることなく、1969年にUCSBで始まり1979年に教授の地位を得た。彼は4冊の本や、本の33の章、専門誌で61の記事を著し、さらに、リモートセンシングの石油流出の検出への利用を初期に開拓する等、200余の発表がある。ジャックの研究は1970年に初めて受賞し、その後、引き続き31年以上にわたり蓄えられ、71のプロジェクトに関係し、研究費の合計は2300万ドルになる。

ジャックは、特にNASAや、1987年～92年までの米国学術会議の地図科学委員会等、多くの委員会に参加した。

UCSBにおいて、ジャックは45の修士号と16の博士号の審査会の議長を務め、学生に最も良く覚えられている教授となるであろう。彼の、これらの学生の研究に対する誠実さや、その研究の中で見いだした喜びは注目すべきであり、私が今までに見たなかで彼に匹敵する人はいない。

ジャックがいなくなり、私は非常に寂しく思う。リモートセンシングや地図の世界の人々が皆、そうであるように。

キース・クラーク
カリフォルニア大学サンタバーバラ校地理学科長

私が最初にジャック・エステスに会ったのは1998年6月にスーフォールズであった。その時、私はフランスを代表しISCGM第4回会合に参加していた。ジャックの考え方や統率力も、会合の終わりまでに私がプロジェクトに参加したいと確信した一因となり、結局、参加することになった。

休憩時間での議論は多くの場合に会議で最も有意義な部分となるが、その時、私はジャックと共通する情熱に気がついた。ジャックは、日本の文化全般について非常に造詣の深い研究者であり、日本の芸術品の収集家でもあった。特に、ケープタウンでのくつろいだ会話を思い出す。その時、私達は、中世の日本の最も素晴らしい人物の一人である宮本武蔵の魅力について語った。宮本武蔵は、技術力のみならず、武蔵の言うところの「戦術」により一戦も失うことのなかった、まさしく空前の、最も素晴らしい剣豪である。彼は人生の半ばで隠居したが、余生は自己鍛錬と芸術に捧げた。彼は、ひときわ優れた書道と絵画を制作し、いくつかは現在でも熊本美術館で展示されている。そのことがケープタウンでの二人の会話の中心であった。

ジャックは、グローバルな展望の任務にあるときは、飽くなき戦略家であったということも思い出そう。

クロード・ルゼ

ユーロジオグラフィックス理事長、ISCGM WG3 座長



(写真提供：クロード・ルゼ氏)

昨年の11月、ジャックは、地球地図フォーラム2000に参加するために、日本の大都市の1つの広島を訪れた。そのフォーラムでジャックがいかに重要な役割を果たしたかは、このニューズレターの読者には報告する必要もないであろう。彼が主な任務に加えてその時に行った、もう一つの仕事をここで紹介したい。彼は、フォーラムが行われた広島国際会議場の本会場を埋めた中学生に講義をしたのであった。

ジャックは、講演に深い感銘を受け耳を傾ける若い聴衆に向かい、カラー・スライドを何枚も見せながら地球環境の現状を説明し、地球環境の保全の重要性を強調した。講義の最後の部分で、彼は、中央に小さな地球が納められ、金の薄片と液体が入ったガラス製の球を示した。この球は広島市長へのお土産として持ってきたと述べた後、それを振り動かしながら、「私は、広島に原爆が投下された直後に黒い雨が降ったと聞きました。これからは、このように金の雨を地面に降らせましょう！」と聴衆に言った。

ジャックは、広島市長の秋葉忠利博士の要請に応えて、背中への痛みを耐えながらこの講演の責任を果たした。私は、講演終了直後に、背中への痛みを訴えているジャックに会った。その時には、私は彼の重い病気を想像することができずに、ただ、彼は背中への筋肉が痙攣し具合が悪く思っていた。ましてや、2、3ヶ月後に私達の友達づきあいを終わらせることになった悲しい出来事を予想することはできなかった。



ジャックが私の目の前で見せてくれた多くの活動を振り返ると、素晴らしい、心の温かいプロジェクト・リーダーであるジャックこと、ジョン・E・エステス教授・博士なしには、地球地図プロジェクトに、このように満足のいく進展はなかったであろうと強く確信する。

野々村 邦夫

広島工業大学教授、元国土地理院長

“ ジャック・エステスを欠くコロンビア、カルタヘナでの GSDI5 ”

全地球データ基盤整備には、多くの非常に重要な人々が意義のある貢献をしてきた。ジャック・エステス教授もその一人であった。彼は GSDI 運営委員会の非常に活動的な委員であった。本年、第 5 回 GSDI 会議が 5 月 21 日～26 日までコロンビア、カルタヘナで開催された。彼は、オープニング・セッションで、言葉の用法が正しくなかった時や議論をうまくまとめることが出来なかった時、写真撮影の時や会議の決議を考える時など、会期中は毎日そこにいた。

2001 年 5 月 26 日に第 8 回 ISCGM 会合が開催された。参加国への資金援助や、地球地図第 1 版の活動、その場で設立されたインダストリー・ワーキング・グループに見られる主要部門の参加など、地球地図に意義深い進歩がなし遂げられた。これらの重要な成果は、ある意味でジャック・エステスの地球の地図作成への最終的な貢献であった。

カルタヘナでのこのような功績を考えると、否応なしに、ジャックが生きていてこれを見られなかったことへの悲しみと、さほど遠くないうちに、彼が、自身の夢を実現し、持続可能な開発へ貢献できる最初の人になるという嬉しさとが混じった複雑な気持ちになる。

サンチャゴ・ボレロ

アグスティン・コダシコロンビア地理院長

GSDI 運営委員会委員長

事務局から

ジョン・E. エステス教授(ジャック)は、ISCGM が設立されて以来委員長を務めてきた。1994 年 11 月に山形県で地球地図国際運営委員会が開催され、この国際的な取り組みの出発点となった。ジャックは世界中から参加した 19 名の専門家の一人で、地球地図の基本方針を定義する山形ワークショップの決議の草案作りに、世界中の国家地図作成機関の地球環境問題への責任について、自身の考えを盛り込み精力的に貢献した。

1996 年 2 月に第 2 回ワークショップがつくば市で開催され、その時、ISCGM が設立された。ジャックは満場一致で初代委員長に選出された。1996 年には地球地図国際セミナーがカリフォルニア大学サンタバーバラ校で開催された。ジャックはセミナーの議長を務め、サンタバーバラ声明を宣言し締めくくった。1998 年、ジャックは、国連をとおして、世界中のすべての国家地図作成機関が地球地図に参加するよう求める書簡を送った。この呼びかけに応じて 80 ヶ国以上が地球地図に参加し、全球の陸域の 80 パーセントを網羅する。2000 年 11 月、地球地図フォーラムが広島市で開催され、地球地図第 1 版の完成を祝い、この取り組みの最初の成果の公開を開始した。

彼の抱いた構想や展望は、まだ完全に実現されたわけではないが、着実に進行している。

エステス先生、あなたのリーダーシップと友情に、再度感謝申し上げます。このリーダーシップと友情は我々が未永く大事に育て、困難に遭ったときの励みにします。どうぞ安らかにやすみ下さい。

秋山 實

ISCGM 事務局長



編集、発行：国土地理院

地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

Tel: 0298-64-6910 Fax: 0298-64-6923

E-mail: sec@iscgm.org

http://www.iscgm.org/